

よこはまカリキュラム情報

編集・発行 横浜市教育委員会事務局 学校教育企画部 教育課程推進室

資質・能力ベースでのスタートカリキュラムの見直しを

昨年度、小学校は、新学習指導要領全面実施の年度でした。各学校では、新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めながら、目の前の子どもを主語にした教育活動の実現に向け、コロナ禍だからこそそのカリキュラム・マネジメント（以下「カリ・マネ」と表記）を進められたことと思います。新年度がスタートし、1年生が入学してきました。子どもの主体性を大切にしたスタートカリキュラムを、資質・能力ベースで見直し、さらにカリ・マネを進める機会としてみてください。



スタートカリキュラムにおいて、特に重視しているねらいは何ですか？

スタートカリキュラムとは、幼児教育から小学校教育への円滑な接続を大切にした、第1学年入学当初のカリキュラムです。以下、本市におけるねらいです。資質・能力ベースでのカリ・マネが求められる中、特にねらいの③が今後のポイントであると考えます。

- ① 安心して学校生活をスタートし、集団の中で自己発揮できるようにします。
- ② 学級の一員としての自覚をもって、協同的に活動することができるようにします。
- ③ 幼児期に身に付けた力を発揮して、各教科等の学習に円滑に移行し、主体的に学ぶことができるようにします。
(横浜版接続期カリキュラム平成29年度版『育ちと学びをつなぐ』P.45より)



資質・能力ベースでのスタートカリキュラムに向け、どのように見直したらよいですか？

目の前の子どもをよく見ることから見直しが始まります。その上で、幼児期の学びを理解し、期待する子どもの姿を職員間で共有します。実際に、単元を構成したり、週案に位置付けたりする際には、学年職員のみならず、他学年や専科の職員とアイデアを出し合ったり、打ち合わせをしたりすると効果的です。以下にスタートカリキュラム編成の流れを例示します。

(1) 幼児の発達や学びを理解する

入学前の子どもの学びや姿について想像したり、情報収集したりする。

(幼稚園を訪問した同僚の声から。

指導要録から。保護者との対話から。)

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について把握する。



園では「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識した取組が重要視されてきています。(R2年度幼保小連携実態調査より)



(2) 期待する子どもの姿を共有する

スタートカリキュラムを通して子どもが身に付けてほしいことを共有する。

(例)

- ・安心感(分かる。できる。楽しい。)
- ・新しい人間関係を築こうとする意欲
- ・主体的に学ぼうとする態度
- ・聞く力、表現する力、友達と一緒に活動する力
- ・小学校生活に必要なルール、習慣
- ・4月～5月までの学習内容

